

# まちを結びつける 5つのカベ

個性のある外に広がった壁によって地域やまちの人が日常のなかで自然とつながる集会所を提案します。壁があることで集会所を利用するきっかけとなり、日常に溶け込んだ集会所が人々に寄り添ったまちのシンボルとなることを目指します。

## 1-1. 既存の集会所の形状による内に閉じた活動

高齢者が多く住んでいる水呑丘には人の集える場所が少なく、今回建て替えられる集会所が北区と南区も含め人が集まる唯一の場所となっています。定期的に人が集まる活動拠点の場となっていますが、現在の集会所は外に開いておらず、中で活動があり人の目につかない状態となっています。これからの集会所はよりまちに対して開かれ、日常に寄り添った存在であるべきではないでしょうか。



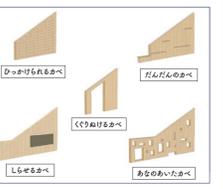
## 1-2. 様々な敷地パターンに対応しつつ、人々が自然と集まりたくなるデザイン

水呑の街は人が通ることができる様々なアプローチが見受けられました。そして、建て替え事業より想定される敷地パターンから周辺と同調しつつ様々な建ち方・使われ方に対応できることが必要だと考え、様々なアプローチから人々を迎え入れることができる、地域の拠り所となるような水呑らしい集会所が必要なのではないかと感じました。



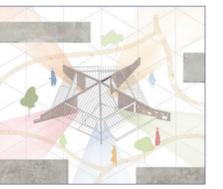
## 2. 周辺からつくられる、日常に寄り添った集会所

地域の人が自然に集えるように、集会所からではなく、その周辺から設計していき、日常との接点をつくり出します。周辺環境に対して個性ある5つの壁が領域をつくりながらまちに開かれ、人々を受け入れます。この地域に寄り添った集会所の周辺環境が世代を超えたつながりをつくるきっかけとなり、まちの中心となる集会所を目指します。



## 3. 地域のみんなに愛される、まちのシンボルとなる五角形

集会所は個性ある5つの壁が構造として集まり、放射状に配置することで開放的な大空間をつくりながら内と外とのつながりを持つ豊かな集会所を生み出します。集会所から広がる壁は周辺の人々に日常的に利用される場所となることで内側での活動を知る些細なきっかけをつくります。この小さなつながりの連鎖からさまざまなアクティビティを育み、多世代をつなぐ水呑の交流の拠点となっていくことを期待します。



大きな屋根のかかったおらかな室内空間は建具を開けることで外への広がりをもつ。



大きなトンガリ屋根と外へと延びる個性のある壁は人の目をびきながら訪れた人を優しく受けとめる。

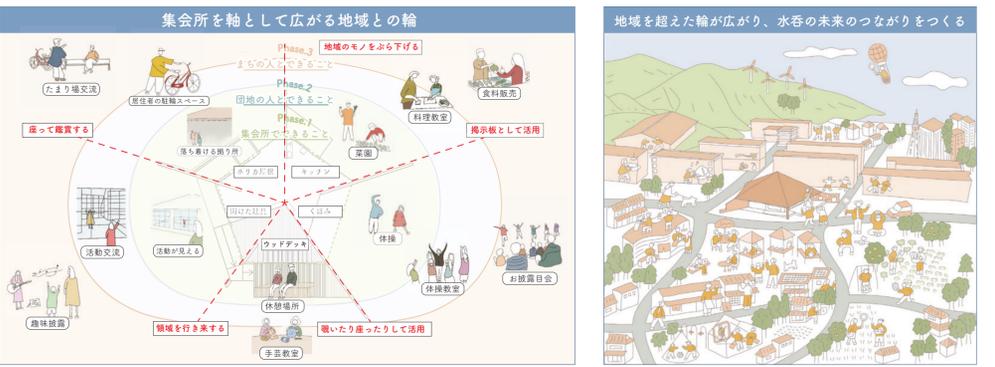
## 4. 様々な住棟のパターンでも魅力を損なわない対応力

既存のアプローチから導かれた5つの面が持つ求心性と、360°全面に対して開いた裏を持たない形状が周辺環境を内部に取り込みます。また、5つの壁がまちの小さな変化に反応し、町と集会所の間に生まれてしまいがちな境界を溶かします。これらによって建て替え事業により考えられる様々な住棟のパターンにおいて対応することが可能です。



## 5. 日常に寄り添いながら未来のまちづくりに影響を与える展開力

柔軟な対応力を持ちながら周囲に影響を与える集会所が、今回の建て替え事業の後にも行われるであろう水呑のまちづくりの中心となることを目指します。集会所によって人々がまちとつながる領域が徐々に生まれていき、未来の水呑のまち全体に影響を与えながら展開していく力を秘めています。



**構** 無柱空間となる集会所は五角錐の山形架構で構成します。製材スパンを超える隅木は県産の集成材を使用し、それ以外の構造部材は製材を用いることで躯体費の削減を図りつつ魅力的な空間を目指しました。

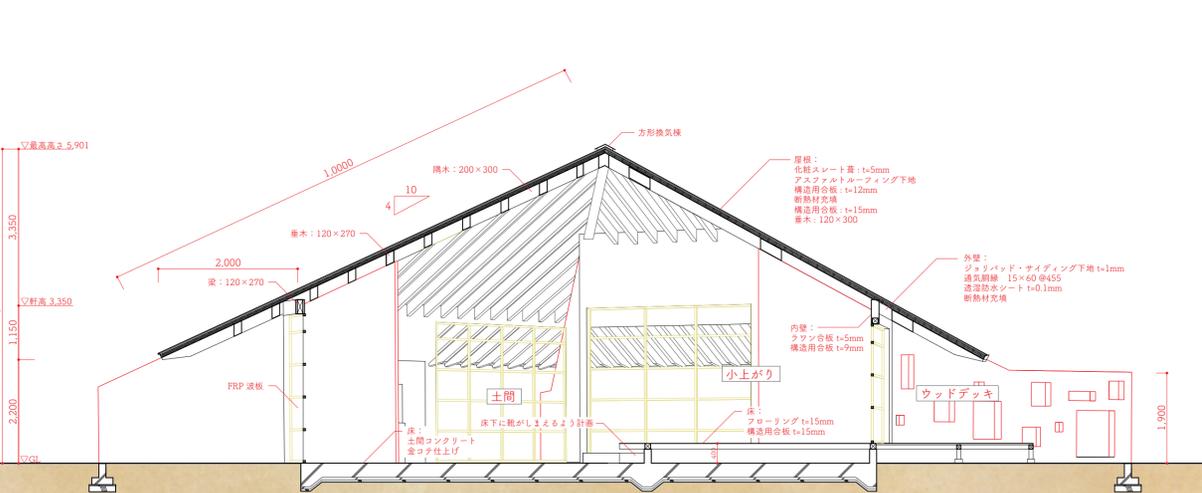


**ラ** イフサイクルコストへの配慮  
木造架構の大屋根の先端上部付近に小さな傘状の開口を設けていることにより、常に自然換気が行えます。これにより屋根の上部に暖かい空気がたまることを防ぎます。また一面の屋根をFRP波板にすることで高さのある室内空間に昼光を取り入れます。

**ロ** コストへの配慮  
内外を仕切る建具や壁に付けるツールを安価な材料により自作することでインジナルコストを削減します。更に土間コンクリートの金コテ仕上げにすることでコストを削減します。

**効** 率的な維持管理への配慮  
土間コンクリートの金コテ仕上げとした床部分はホコリなどのゴミの掃除がしやすく、維持管理が容易になります。また、全面の軒を外壁部よりも2mほど延長させることで壁や床の汚れを低減し、綺麗な環境を保ちます。

**脱** 炭素への配慮  
県産材を使用することで資材の運搬による二酸化炭素排出量の削減をするとともに、広島市の公共建築建築物の低い木造利用率に対する貢献をします。



断面図 S=1/75

## 6. みんなの理想の集会所となるための計画

私たちは毎週木曜日に行われる向ヶ丘サロンに参加させていただき、実際に使用されている方達とお話を伺い生の声を聞きました。利用されている方々の要望にしっかりと応えるため、これからの集会所のあり方について考え丁寧に設計をしたいと考えています。

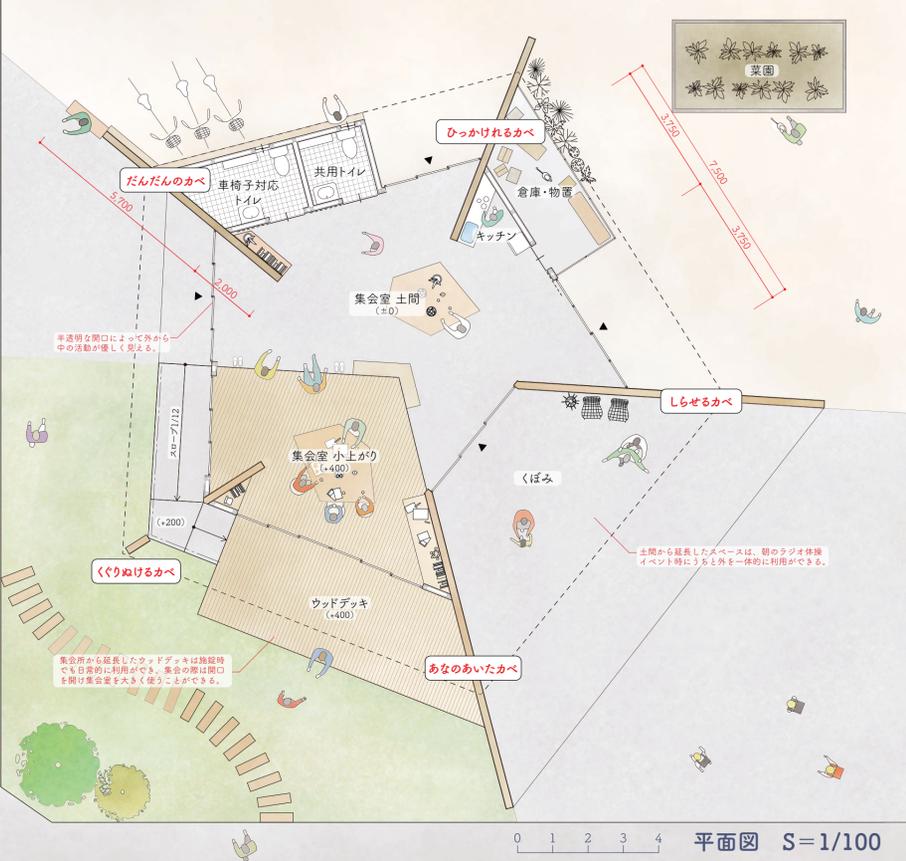
- 住民の声：段差が大変、小上がりが欲しい、休養ができるスペースが欲しい**
- 柔軟性のある集会所**  
現在利用されている集会所の規模が約30㎡程度ということもあり、集会所に土間スペースと小上がりのスペースを設けました。土間は内外フラットに出入りでき高齢者でも利用しやすい場所となっています。また土間は様々な状況に対応でき、休養などスペースをとる活動などは開口を開け外と一体的に使用することが可能です。
- 住民の声：若い人も参加してもらいたい これから：水呑らしい集会所**
- 様々な居場所のある集会所**  
この建築は内に閉じず、どんな人でも迎え入れる水呑らしいおらかな佇まいをしています。個性ある5つの壁がさまざまな人と結びつくことで、小上がりに座って話す人やデッキに寝転んでる人など各所に居場所ができ、多世代との交流が生まれます。
- 住民の声：ふらっと立ち替れる場所 これから：向丘の拠点として**
- 大屋根が新たなまちのシンボルに**  
水呑の街並みに呼応し、全方向に開かれた集会所は人々を迎え入れ、まちのたまり場となります。特徴的な5角形の屋根はどこの街にもあり新しいまちのシンボルとなります。
- 住民の声：軒下空間が欲しい**  
移動販売車が停まり販売できるスペースや、雨が降りやすい軒を延ばし2000mmの軒下空間を設けました。
- 住民の声：無駄な植栽を計画しないで欲しい**  
植栽を開いた一面のみ計画することで、維持管理が容易にできます。

## 7. 街のみんなとともに考え、ともにつくり上げる

この集会所がまちづくりの拠点となっていくよう設計のプロセスと大事にし、ワークショップなどを通して話し合い住民の皆さんと、ともに考え、ともにつくり上げていきます。

面積表

小上がり	28.80㎡
土間	51.88㎡
集会所	80.68㎡
男性・女性用トイレ	3.48㎡
重い自転車	5.94㎡
便所	9.44㎡
倉庫・物置	8.06㎡
合計	98.18㎡



平面図 S=1/100